



430

90

100

110

真亨建多編輯
鮮齋永濯書



現
今
英名百首
全

明治十四年
九月出版

同盟閣發行

十文
此書は、
英名百首
の英名を
和名に
対して、
その
読み方
を
示す
ものである。
英名は、
和名に
対して、
その
読み方
を
示す
ものである。
英名は、
和名に
対して、
その
読み方
を
示す
ものである。
英名は、
和名に
対して、
その
読み方
を
示す
ものである。





三條實美公
 年於みよ
 秋の夜半
 三條實美公は秋の夜半に
 のをききしをててみんりておみしは
 にはしそをいひしをてててててて
 子に人びとをいひしをててててて
 若かり死にたむはみまきくのしは
 うの丹をいひしをてててててて
 人のいひしをててててててて
 不相のいひしをてててててて
 安をいひしをててててててて
 我をいひしをててててててて
 ありておみわきしをててててて

三條實美公の御事
 三條實美公は秋の夜半に
 のをききしをててみんりておみしは
 にはしそをいひしをててててて
 子に人びとをいひしをててててて
 若かり死にたむはみまきくのしは
 うの丹をいひしをてててててて
 人のいひしをててててててて
 不相のいひしをてててててて
 安をいひしをててててててて
 我をいひしをててててててて
 ありておみわきしをててててて



三條實美公
 年於みよ
 秋の夜半



岩倉具視公の神威秀才とて
 象選使者の國へ爲し驅馳
 相の如く拜も、日本書の人
 事とを如く、摩訶の德有る
 臣と稱し、平書公明と尊る
 時、和漢洋書と別方とを
 に明かなる平書公使と爲る
 了て、衣まがらんと、美詞とて
 屬詞とて、狂吟論と解
 説、支國と爲る、彼と、其
 後、彼と、彼と、い

岩倉具視公

小倉ゆゆ



和の秀尤



平書公使の神威秀才とて
 象選使者の國へ爲し驅馳
 相の如く拜も、日本書の人
 事とを如く、摩訶の德有る
 臣と稱し、平書公明と尊る
 時、和漢洋書と別方とを
 に明かなる平書公使と爲る
 了て、衣まがらんと、美詞とて
 屬詞とて、狂吟論と解
 説、支國と爲る、彼と、其
 後、彼と、彼と、い



神原又文卿の御女
丁少はて哀書と好
志華はやくくし
ふはの難典侍の御下
表望暇と侍の時
小段のよき
千言の書と相定
を百快二番よ
ゆ人の遊を暇と阿
人の善良陽と説
とくし

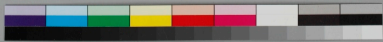


あつたさ
ふはの
よき
あつた

道明の三州藩
山のふもと
影のふもと
はてしなく
二のふもと
松原のふもと
降伏のふもと
のふもと
のふもと
のふもと



あつたさ
ふはの
よき
あつた



徳川幕府の成立
徳川家康が豊臣氏を打ち破り、
徳川幕府を樹立した。徳川家康は
徳川幕府の初代将軍となった。
徳川幕府は、徳川家康の孫である
徳川家光が、徳川幕府の第2代
将軍となった。徳川幕府は、徳川
家康の孫である徳川家光が、徳川
幕府の第2代将軍となった。徳川
幕府は、徳川家康の孫である徳川
家光が、徳川幕府の第2代将軍
となった。



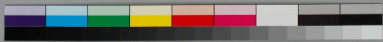
徳川幕府の成立
徳川家康が豊臣氏を打ち破り、
徳川幕府を樹立した。徳川家康は
徳川幕府の初代将軍となった。
徳川幕府は、徳川家康の孫である
徳川家光が、徳川幕府の第2代
将軍となった。徳川幕府は、徳川
家康の孫である徳川家光が、徳川
幕府の第2代将軍となった。徳川
幕府は、徳川家康の孫である徳川
家光が、徳川幕府の第2代将軍
となった。



河村純直
 主に...
 我...
 此...
 ...



野津...
 道貫...
 ...



福澤諭吉は蘭学を以て
その幼少より蘭学を通じ
蘭語の読解を以てし
研究し和漢の学を以てし
し得識多き才あり
福澤諭吉三回より蘭学を
修めしは
蘭語の読解を以てし
研究し和漢の学を以てし
し得識多き才あり
福澤諭吉三回より蘭学を
修めしは

福澤諭吉
蘭学
我之
可也
可也
可也



味酒ニ下地蘭古河藩。
有る是阿茶のす
し味酒ニ下地蘭古河藩。
有る是阿茶のす
し味酒ニ下地蘭古河藩。
有る是阿茶のす

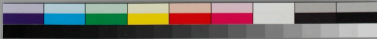
奥原晴明
うは
晴明
晴明
晴明



高島嘉右衛門
不詳の
錦
わ
るひきたる
横比舟の
ゆとぎ
この



金瓶今家
アキヲウケ
アキヲウケ
アキヲウケ



西村 藤成
徳行 自然
あゆむ
ほむ
山の
社と
拜まひてらふ



西村 藤成
徳行 自然
あゆむ
ほむ
山の
社と
拜まひてらふ



尚中 志望す師國佐金吾
 留脚り身重事げそ
 喧とるがし器能と深く
 評一やうんハ其
 後神術の應と朝廷に軍
 督監は命とて東軍
 不其醫の言れ高
 とん醫つては珍業と
 七多先生其の七と取
 一と書けぬ編子遊
 又以て海治せし上

明五生の然ら外科の名
 醫一て氏展の殿
 則村村の官軍、旗行
 一高徳として益世す平
 定の後、功以賞さき
 一、後軍督監とて
 失主事、事日能く
 一、奉命、事始、良
 醫、年、一、五、上、幾、能、い
 なく、地、能、し、多、う、し、正
 正、徳、一、親、往、一、し、

佐藤高申



あつた
 子は
 富の包
 ちかぢりなき
 人のとりの
 此れいかに人も

松本順



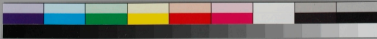
一、何、物、も、し、君、の
 意、つ、て、成
 男、の
 と、を、
 と、を、
 道、に、
 守、を、
 くら、い、



福地源一 今、て西
神、本蘭洋の字、神、
無許の彼を、並、年、英
様、ら、ん、其、様、も、神、の、新、開
社、に、從、り、心、を、た、ら、し、神、
院、或、ハ、推、額、子、派、子、と、い
ふ、と、も、一、各、國、の、新、開、社、
を、こ、と、し、是、ハ、新、開、社、
記、載、に、照、し、す、一、同、位、
進、歩、の、態、を、一、此、新、開、社、
式、を、一、と、す



岸田吟香 如漢の香
流、一、流、は、字、の、尋、ら、る
一、と、新、開、社、に、建、一、て、前
年、の、季、こ、と、し、此、新、開、社、
の、社、を、統、け、多、く、の、新、開、社、
神、院、と、稱、せ、し、る、と、い、ふ
一、又、其、新、開、社、の、新、開、社、
一、と、推、額、子、派、子、と、い、ふ
一、と、も、一、各、國、の、新、開、社、
を、こ、と、し、是、ハ、新、開、社、
記、載、に、照、し、す、一、同、位、
進、歩、の、態、を、一、此、新、開、社、
式、を、一、と、す



此の... 古の... 時人...
 其の... 後... して...
 ...

此の... 古の... 時人...
 ...



大沼枕山
 読み物

さゆきよ

うは

傷

へ

...

...

嵐島柳北
 と



中

...

...

...

...

文才の山印の長男... 二河の兄弟... 博識... 國史... 四半... 幕府... 時... 皇國...



柳田正齋
女...
あ...
か...
林に
ふかく
也...

文才の山印の長男... 二河の兄弟... 博識... 國史... 四半... 幕府... 時... 皇國...



頼支半
あ...
か...
林に
ふかく
也...



英名百首

博文君は五州の藩士
一と稱し侯爵の呼ばれ
和漢の書に造り其の
漢字を以て詩文和歌
に造り木戸氏に供し京師
にあり國事を力に大政
に及ぶ大業は成し其時
にあり今國工部卿に在任
又明治十二年五月二日
位に受爵し博識と

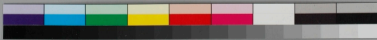


紅蘭は星嶽の妻
一と稱し和漢の書
に造り明も別れをま
言西和歌を造り大
死してつら海にゆり情
概有志の輩とありし
しとありし衆に造り
其のいと造り事舟の説
にも受け此地を潜居し
ていふ京師にありし



英名百首

廿四



一、若君、田平君の臣、
て、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

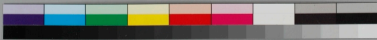


大久保一翁
白鳥の
玉の
秋も
あはれ
なる

小舟大君、田長州の
藩士として、頗る英
傑なり。其の徳は、
降参り、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、



鳥居小舟大
あは
山の端不
自甘
妙なる



重宝の四世賢の御子
一、時藏多可も同足
此二死て同事スルカ大
成徳の大家も
其後官職ニ就つて
和議ニ従ひ町奉行
四位大藏卿と爲りし事
判ト一、其後官ニ就
シ一、町奉行に判ム
カ一、町奉行と判ム
不地キリキリ



大隈重信

此の世に
おのころもい
ぬひきんぬのひと
おのころもいぬひきんぬのひと

山岡鉄太郎の御子
一、其子もも撃御子作
一、其子もも撃御子作
一、其子もも撃御子作
一、其子もも撃御子作
一、其子もも撃御子作
一、其子もも撃御子作
一、其子もも撃御子作
一、其子もも撃御子作



山岡鉄太郎



利根君も川路氏十
 八文官軍と編
 加藤洋書と歩
 後軍の歩
 の大警
 十年
 軍少將
 二
 城
 を
 此

利根君も川路氏十
 八文官軍と編
 加藤洋書と歩
 後軍の歩
 の大警
 十年
 軍少將
 二
 城
 を
 此



英名百選
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百



黒田清隆
玉冠をたろう
煙りの古志く
卯つ國まそと
作、ヨコウリもや

英名百選
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百



淡洋栄一
棒子園此
さかえを
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百



天保五年

大倉春八郎
阿き人住
こころ屋
あつめの茶の
味飲
注し
とや
又と



大倉春八郎
阿き人住
こころ屋
あつめの茶の
味飲
注し
とや
又と



天保五年

天保五年





此の書は...
 一巻...
 二巻...
 三巻...
 四巻...
 五巻...
 六巻...
 七巻...
 八巻...
 九巻...
 十巻...

此の書は...
 一巻...
 二巻...
 三巻...
 四巻...
 五巻...
 六巻...
 七巻...
 八巻...
 九巻...
 十巻...

此の書は...
 一巻...
 二巻...
 三巻...
 四巻...
 五巻...
 六巻...
 七巻...
 八巻...
 九巻...
 十巻...

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

山崎
 初見
 色
 見初も
 芝橋花園



山崎
 初見
 色
 見初も
 芝橋花園



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

加藤千浪
千浪の通稱と云ふは
呼ぶ萩の國と云ふは
國白河の産と云ふは
歌人千浪を云ふは
吾國一統と云ふは
主君と云ふは人か
千浪と云ふは人か
千浪と云ふは人か
千浪と云ふは人か

千浪の通稱と云ふは
呼ぶ萩の國と云ふは
國白河の産と云ふは
歌人千浪を云ふは
吾國一統と云ふは
主君と云ふは人か
千浪と云ふは人か
千浪と云ふは人か
千浪と云ふは人か

千浪の通稱と云ふは
呼ぶ萩の國と云ふは
國白河の産と云ふは
歌人千浪を云ふは
吾國一統と云ふは
主君と云ふは人か
千浪と云ふは人か
千浪と云ふは人か
千浪と云ふは人か

加藤千浪



踏見花鼓



言部一守和島如牛
伊達氏の女を十七歳
一島津家の公子悦之助
嫁して婚姻のめ、高直
徳川将軍も之を看し、國
意又島津に賜給し、
一以姫と名づけ、島津に
一己父母の家を以て人、
解つて上の御座、八、
一十八、島津に嫁つて、
一島津の島津に嫁つて、

伊達宮姫



高直の女、田舎汁茶の元
古はワ、九、島津の姫、
一嫁し、島津に嫁つて、
一徳川将軍も之を看し、
一島津に賜給し、
一己父母の家を以て人、
一解つて上の御座、八、
一十八、島津に嫁つて、
一島津の島津に嫁つて、

蓋澤鳴尾女



高橋一八郎石門門
堂國一平の長子
て風流を學ぶ
書は精し母又よ
一層悦ばせ申中
の賞筆はたつれ
二度か廻行し
又下首へ書紙を
贈るに力
多々の手紙あり

三井高橋
國民の
ひそ
はさ
我富の
相りもあか
打鹿さほし



三井高橋一八郎石門門
堂國一平の長子
て風流を學ぶ
書は精し母又よ
一層悦ばせ申中
の賞筆はたつれ
二度か廻行し
又下首へ書紙を
贈るに力
多々の手紙あり



岩崎備太郎
悪託うたう
畑の徒
な
ま
め
用のル
めよわ
るり



行旅中の東京本所
 四角の借宿一軒に博
 識多才より傳書とい
 へる（うらやま） 四角詩
 文に述べて四角と云ふは
 て學問と書一職士の
 志氣をうけ、筆蹟は
 遠く不川橋、遠代、橋
 流して、遊藝を味し、
 心と成學の心もついで和
 歌と傳へといへ

是其の遊藝も成り、吟じ
 田詩傳御や、風雅の心よ
 今、文人並にこの詩文
 和歌も、遊とて、俳諧の海
 へ多く到り、書よ、友人
 を、手紙、性質、詩的、
 へ、詞、少く、器、器、の、ま、ま
 う、贈、り、寄、入、の、聞、へ、い、
 俗、人、と、交、り、こ、い、は、し、
 たり

釋行旅



ちのまは、
 才を、
 名のりて、
 平の秋

柴田



花ふみ
 柴田
 花ふみ
 柴田
 花ふみ
 柴田



徳川幕府の成立と徳川家康の功績
 徳川幕府の成立と徳川家康の功績
 徳川幕府の成立と徳川家康の功績

徳川幕府の成立と徳川家康の功績
 徳川幕府の成立と徳川家康の功績
 徳川幕府の成立と徳川家康の功績

徳川幕府の成立と徳川家康の功績
 徳川幕府の成立と徳川家康の功績
 徳川幕府の成立と徳川家康の功績



徳川幕府の成立と徳川家康の功績
 徳川幕府の成立と徳川家康の功績
 徳川幕府の成立と徳川家康の功績



古今和歌集
卷之八

一、和歌の源流
二、和歌の分類
三、和歌の作法
四、和歌の歴史
五、和歌の地位
六、和歌の発展
七、和歌の衰退
八、和歌の復興
九、和歌の現在
十、和歌の将来

一、和歌の源流
二、和歌の分類
三、和歌の作法
四、和歌の歴史
五、和歌の地位
六、和歌の発展
七、和歌の衰退
八、和歌の復興
九、和歌の現在
十、和歌の将来

英名百篇



大橋の指月
袴はもろくはて
ハ代の空



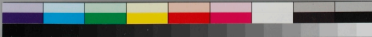
小麻女
衣のむらさ
長一ひも
あくと
思ひぬ
神の白鳥



湖衣の意は先づ...
 前巻の如く...
 此の如く...
 ...
 ...
 ...



此八ヶ田...
 ...
 ...
 ...
 ...





三巻の四巻の巻目
 一、博く和漢の事
 二、博く和漢の事
 三、博く和漢の事
 四、博く和漢の事
 五、博く和漢の事
 六、博く和漢の事
 七、博く和漢の事
 八、博く和漢の事
 九、博く和漢の事
 十、博く和漢の事

島津家久の四男
 一、博く和漢の事
 二、博く和漢の事
 三、博く和漢の事
 四、博く和漢の事
 五、博く和漢の事
 六、博く和漢の事
 七、博く和漢の事
 八、博く和漢の事
 九、博く和漢の事
 十、博く和漢の事

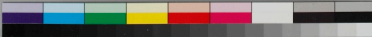




長三洲
三洲

二河と書道...
一河...
二河...
三河...
四河...
五河...
六河...
七河...
八河...
九河...
十河...

川...
神...
...
...
...
...
...
...
...
...
...



秋の夜月

秋の夜月 大馬主介
人々まろ
空や
うら
とく
あふ
かよひてとめる
秋の夜月



小筆二河田原の人
渡辺華山の嫡子
ふり生長の櫻山
就一画の巻り奉りて
父華山の画風なり
名譽うらやま 諸國
歴々の後古那田平
写す雪月花長友と
一と風雅の心あつて
詩文和歌を述べて
よひ



秋の夜月

秋の夜月



其水へ通稱と新セ
 呼の紅言作者にて
 久し劇場に關係
 一無數名譽の人物
 蘭明の種和國の書
 曜とてし西洋翻譯
 一學に研究して作
 之とす劇場に學
 一先上人と社長守田
 動物と談合し新者
 殿殿よろせ



現在世に於ては
 和漢の書に於ては
 神の形像も亦し引
 字の平地とて研究
 一野史小説とて
 一神話とて
 一小説とて
 一歴史とて
 一詩とて
 一歌とて
 一書とて
 一画とて
 一工とて
 一技とて
 一術とて
 一道とて
 一學とて
 一業とて
 一職とて
 一任とて
 一官とて
 一士とて
 一農とて
 一工とて
 一商とて
 一士とて
 一農とて
 一工とて
 一商とて



茶話

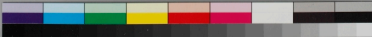
茶話



田中平八
時を待つ
十五平
おのれ
かゝる
我が方なり



河内家奴
をの子馬も
牙成とさう
おのれ
かゝる
我が方なり





春湖 尾西の春十守
たり俳句 名あり人き如
少し行脚 下り秋
多し閑坐 遊字 下り安閑
も 蘭子町 秋の 雨 下り
送 下り人 帰 下り心 下り
寄 下り人 下り

秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色

五代の孫 八十一歳
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色

小竹庵春湖
住之



秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色
秋の海の色

五代友厚

秋の海の色

池みり

民

茶

と

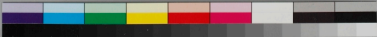
こころをい成



こころをい成
ける 成
ける 成

秋の海の色

五代友厚



風俗の作の洋の著
士、博くお笑の書
道、異し洋字を習ひて
既、洋字の家、書ハシ
ト、トウ野文小説、ト
ト、ト著、十、所、の、書、
ト、ト著、十、所、の、書、
ト、ト著、十、所、の、書、



其作舞
舞、其、行
舞、其、行
舞、其、行

桐野の著、十、所、の、書、
桐野の著、十、所、の、書、
桐野の著、十、所、の、書、
桐野の著、十、所、の、書、
桐野の著、十、所、の、書、
桐野の著、十、所、の、書、
桐野の著、十、所、の、書、



桐野の著、十、所、の、書、

桐野の著、十、所、の、書、



千代... 平... 中... 政... 全... 命... 命... 命...



千代... 平... 中... 政... 全... 命... 命... 命...



山川の雄姿...
松平の...
長谷川の...
舟渡の...
松平の...
舟渡の...
松平の...
舟渡の...

松平の...
舟渡の...
松平の...
舟渡の...
松平の...
舟渡の...



舟渡の...
松平の...
舟渡の...
松平の...
舟渡の...
松平の...



舟渡の...
松平の...
舟渡の...
松平の...
舟渡の...
松平の...



此の世に... 徳川... 寺島...
 徳川... 寺島... 徳川... 寺島...
 徳川... 寺島... 徳川... 寺島...
 徳川... 寺島... 徳川... 寺島...



此の世に... 徳川... 寺島...
 徳川... 寺島... 徳川... 寺島...
 徳川... 寺島... 徳川... 寺島...
 徳川... 寺島... 徳川... 寺島...



英名存首

阿部宗重 西木頼十郎
一、才のり 明治八年
五月 仲夏 西木頼十郎
一、西木 頼十郎 木造
まて 頼十郎 木造 頼十郎
頼十郎 頼十郎 頼十郎
頼十郎 頼十郎 頼十郎
頼十郎 頼十郎 頼十郎
頼十郎 頼十郎 頼十郎

三神子 木上文輝の門
人として 加少 和歌を
好む 風雅の心 ありて 故に
之 藝技を 習は ず 不 志
大に 西木 頼十郎 三神子
と 志し 西木 頼十郎 三神子
が 志す 人 西木 頼十郎
三神子 西木 頼十郎 三神子
三神子 西木 頼十郎 三神子
三神子 西木 頼十郎 三神子

阿部宗重女



引大なる 月う
光を ともす

松の門三神子



こゝろ 此



徳島(島本)藩士
 長瀬(時)久平(通)
 且軍器深く(武)術
 尤も(上)り(長)閑(寛)
 同(藩)士(一)部(加)藤(中)
 宮(軍)器(精)練(大)馬(小)
 馬(御)野(兵)と(味)合
 リ(學)び(歌)じ(り)明(治)
 十(年)十(月)十(六)日(開)
 山(前)に(あ)り(博)

内(信)君(一)部(藩)士(一)
 博(博)知(漢)の(書)に(通)し
 尤(て)蘭(字)を(之)學(び)て
 詩(文)學(に)達(し)摩(斯)の
 語(を)家(傳)に(あ)り(蘭)事(を)
 盡(力)に(究)究(し)就(其)後
 吹(洞)と(能)絶(し)洋(書)
 尤(も)長(く)特(奇)全
 權(公)位(に)す(り)復(四)位(に)
 叙(任)し(て)英(國)に(あ)り(け)り



山(折)右(左)
 せん
 ちゅうり
 池(邊)古(十)年



致(島)尚(任)
 博(博)知(漢)の(書)に(通)し
 尤(て)蘭(字)を(之)學(び)て
 詩(文)學(に)達(し)摩(斯)の
 語(を)家(傳)に(あ)り(蘭)事(を)
 盡(力)に(究)究(し)就(其)後
 吹(洞)と(能)絶(し)洋(書)
 尤(も)長(く)特(奇)全
 權(公)位(に)す(り)復(四)位(に)
 叙(任)し(て)英(國)に(あ)り(け)り



英名百首

西郷従道の事
 西郷従道は、和州大湊に生れたる者なり。幼少より志氣高く、父の死に於ては、母を奉養すに専ら力を盡し、其の節行を世に傳へし。其の事蹟は、和州大湊に在りて、西郷半蔵といふ。其の事蹟は、和州大湊に在りて、西郷半蔵といふ。其の事蹟は、和州大湊に在りて、西郷半蔵といふ。



西郷従道
 日の本に
 光りて
 外子の
 秋の夜は
 静か

英名百首
 西郷半蔵の事
 西郷半蔵は、和州大湊に生れたる者なり。幼少より志氣高く、父の死に於ては、母を奉養すに専ら力を盡し、其の節行を世に傳へし。其の事蹟は、和州大湊に在りて、西郷半蔵といふ。其の事蹟は、和州大湊に在りて、西郷半蔵といふ。



西郷原因幹
 八代よもせせり
 七浪
 干あしひの
 静か



山科より四郎右衛門守一
 作樂多きも、種子百家
 一考、神、氏、風、の、徳、の、事
 王、事、敵、死、し、母、の、相、成、の
 志、と、不、一、難、難、の、事、等、道
 用、の、事、以、其、言、一、史、其、身
 知、事、の、事、命、一、其、後、心
 是、院、院、宮、と、も、使、四、使
 一、任、一、毎、史、と、事、一、
 一、事、一、事、一、一、事、一、
 一、事、一、事、一、一、事、一、
 一、事、一、事、一、一、事、一、

由利公正



おの
 ちる
 名、跡、も、おの
 ず、の、せ、う、し、事

松平春嶽



よ
 の
 魁
 ハ
 乙、身、一、そ、り、一、
 乃、む

討、つ、原、水、掛、也、一、於、つ、絶
 前、他、子、の、落、玉、に、り、會、武、王
 年、の、狀、性、疑、の、事、あり、と
 く、難、疑、と、り、り、つ、萬
 延、年、間、時、該、論、の、撰、平
 一、れ、五、歳、り、と、説、す、り、
 一、有、志、事、大、い、と、説、す、り、
 一、一、廣、性、も、く、職、の、神
 一、空、論、の、り、り、一、一、成、説
 一、の、代、の、木、國、説、評、論、の、
 一、り、り、一、一、事、一、一、事、一、



林の上遊地より
得川江討の共聞東下
向し聞やびん地獄の英傑
少く無くして州の原土を
も久入留の共て是れ地獄
の原にこそあり 龍夜を舟入
も百軍と稱すなりと云ふ
水・是討と云州遊海す
此・一丁木頭へ是き
浮沈の事と地獄と一軍
此・百軍と一なり

林昌之補

向るく
はき
ほき
月正標
雪の
早やりのちなる
雪と八春る雪を



推則石田州高湖の山
知事秋月土佐守の決闘
の事少くは増し和菜
の書に字に且評文とあり
如暴舟一頭全滅と云圖
事と云ふ一推許の原田
復地と云う一其復官
定し是れ從四位の誠官
十叙性せられり

秋月種樹

秋月の
秋の
夕陽も
雨の
少
秋の下産



徳川幕府
御用
御用

安否人

志願平太衛門

同

石田忠兵衛

同

辻水九兵衛

同

今庄七郎兵衛



